創誠健和

旭川中学校　学校通信　３月号

令和６年３月２５日発行

年度末にあたって

日差しの明るさと暖かさに、確かな春の訪れを感じるようになりました。

本日、修了式を行い令和５年度の教育活動を終えることができました。

今年度は、コロナがようやく５類へと移行し、制限の緩和がすすむ中、改めて全校生徒に対して、優しさに磨きをかけ、開拓の精神が受け継がれるこの地域から、北海道はもとより、日本、そして世界を、優しさあふれる素敵な場所に変えるため、「世界一」の優しい学校を目指すことを誓い、取り組みを推進してきました。

先行きが不透明な時代に生きる私たちですが、世界を変えるという壮大な目的に向かって、全校生徒が一丸となり一緒に努力をはじめ、今では誰もがこの言葉を口にしてくれるようになりました。

また、今年度は「アップデート」をキーワードに掲げ、チーム担任制や旭中フェス、部活動と、昨年度よりも更に改善を進め、生徒自らが地域の未来を背負う担い手であることを自覚すると同時に、一人一人が旭中生としての「誇り」を持って自分たちの手で作っていくのだという「自律」の精神を大切にし、実践をアップデートしてくれました。

取り組みを進めることができましたのは、保護者や地域の皆様にご理解とご協力を頂いたからこそと、心より感謝を申し上げます。

生徒たちは、今できることを精一杯頑張り、学習面・体力面を向上させるために努力し、心の面でも大きく成長しました。コロナ禍だったからこそ学べたことをしっかり生活に活かし、それぞれの目標に向かって更に成長してくれたことを嬉しく思います。

３月１５日、第７７回卒業証書授与式を挙行し、８０名の卒業生が立派に巣立っていきました。落ち着いた姿で式に臨む卒業生の姿に、３年間の成長を感じました。

卒業式には、限られた在校生しか参加することが出来ませんでしたので、式辞の中で私が伝えさせていただいた一部を紹介させていただきます。

３年１組

３年２組

卒業証書授与式式辞より

皆さんにとっての三年間は、コロナによって、悔しさや苦労もあったのだろうと思うと、門出を祝う式辞の言葉を選ぶ中で、この話題に触れるか悩みましたが、ある生徒が私との面接練習の中で、こんな話をしてくれたことを思い出しました。

「当たり前の日常が当たり前ではなくなり、マスクをつけたり、行事が延期や中止になったり、もちろん不自由に感じたし、不満もあった。でも、コロナ禍での日常が自分たちの中学校生活の現実。そして、コロナが明けた今、明るい未来があるかもしれないし、あるいは過酷な日々が待っているのかもしれない。どちらにしても　私たちの日常は確かに続いていく」そんな話をしてくれました。この混沌とした時代の転換期。　仲間とともに特別な時間を過ごしたからこその一言だと思います。皆さんは、新しい時代を創る一翼を担った世代であることに間違いありません。だからどうか、不確実で変化が激しい時代に、しっかりやりきった自分を褒めてあげてください。隣の友人を讃えてください。仲間と一緒にこの旭中で学んだことを誇りに思ってほしい。

貴方の人生は貴方のものです。自分の選択が正しかったと思えるように、全力で取り組んでください。その挑戦が無謀だと言われても、できるわけがないと笑われても、自分の願う未来を簡単に諦めないでほしい。大切なのは自分を信じて挑戦し続けること。最初から上手くいくことなどはほとんどなくて、いつか出来ると信じて、あきらめずに学び続けること。コロナ禍という困難を乗り越えたときに生まれた皆さんの自信は、今後、自分の道を拓くための力となっています。

この言葉を卒業生に贈りましたが、これは在校生にも通じることで、同様に贈りたい言葉です。

思うようにならない事が続いた４年間でしたが、今後の人生において、苦しい時、壁にぶつかった時、負けずに立ち向かう気持ちや、乗り越えるために努力する心を大切に出来るようになったと信じております。

コロナ禍から得たこと、学んだことには、「人が互いに支え合うことの大切さ」「苦労をされている方々を理解し寄り添う気持ち」「友だちや家族の大切さ、差別や偏見、誹謗中傷の愚かさ」など、沢山ありました。それは、これから私たちが生きていく上で、世界一優しい学校を目指す上で、大きな力になると信じます。

４月から５８名の１年生が入学してきます。新たな３学年が揃ってのスタートです。先輩として新入生をしっかり導きながら、この旭中の学びを一層よいものにしてくれることと確信しています。

結びに、私ごとで恐縮ですが、３月いっぱいでこの旭川中学校を離れることとなりました。素直で明るい生徒、伝統ある温かな地域に囲まれての３年間の勤務でした。旭中での勤務は私にとってたいへん幸せな時間であったことに間違いありません。これまで温かいご支援とご厚情をお寄せ下さいました保護者や地域の皆様に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

こんな言葉を頭に置きながら３年間を過ごしてきました。

ー東井　義雄著「子どもを見る目　活かす知恵」から」ー

どの子も子どもは星
みんなそれぞれがそれぞれの光をいただいていてまばたきをしている
僕の星を見てくださいとまばたきをしている
私の光を見てくださいとまばたきをしている

光をみてやろう
まばたきに応えてやろう
光を見てもらえてないと
子どもの星は光を消す
まばたきをやめる
まばたきをやめてしまおうとしはじめている星はいないか

光をみてやろう
まばたきに応えてやろう
そして　やんちゃな者からはやんちゃ者の光
おとなしい子からはおとなしい子の光
天いっぱいに　子どもの光を　輝かせよう